

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes O1764-00018, 株式会社萌福祉サービス, グループホーム萌, 留萌市開運町1丁目2番10号, 令和2年3月10日, 令和2年8月5日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kiho\_n=true&JigyosyoCd=0176400018-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 令和2年7月17日(令和元年度分).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GH萌の一番力を入れている点は、何よりも自分の家にいるような感覚で過ごせる環境作りです。来て頂く... 職員が利用者様の事を思うのは当たり前ですが、利用者様も職員に対していつも声を掛けて下さいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内中心部に位置し、JR駅や病院、スーパーにも近く利便性の高い地域であり、また周囲は古くからの住宅街で、落ち着いた住宅が並ぶ閑静な環境下に立地している。開設は平成13年で、介護事業を地元で展開していた法人が留萌市の依頼を受け、地域で最初の認知症対応型共同住居として1ユニットを当地で運営を開始した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務においても立ち返るべき場所が理念とアクション8なので迷ったときなど戻るべき場所として毎日唱和しています。	守るために攻め続けるを基本とし、モエプライドアクションエイトを定め、日々唱和しながら常に自己に問いかけ、理念の共有化と実践を目指して取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などを通して、近所の皆さんとご挨拶、会話をし交流を深め、覚えていただく中で非常時などの協力をお願いしています。	設立して20年近くが経過し、地域に根差した存在となってきた。また利用者も二世代に及び、地域と相互の関係性が自然に出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、広く市内の皆さんよりご相談を頂く事が増えています。特に宣伝していることはありませんが、他事業所や、ご家族からの口コミなのか時々飛び込みでのご相談を頂いて居ます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で実際の写真を使い様子を見ていただく中で、ご意見をいただいています。また、Drからは、地域の医療に関する助言を頂く事で感染症等の対策に生かさせて頂いています。	運営推進会議は行政や家族、協力医の参加を得て定期開催しており、議題も行事の内容にとどまらず、事故やヒヤリハットも報告されており、認知症の情宣やサービス向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	留萌市や、包括、振興局、生保係等との連絡は密に行い時々来て頂く中で協力関係を維持しています。	行政とは、制度の疑似解釈から運営方法等々親密に情報交換できる関係を保っており、生活保護を含め協力体制で臨んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、特に注意をしています。ミーティングの中でも知らないうちに拘束になっていることも考えられるので、研修会で話し合いを行う中で確認を行っています。	身体拘束への取り組みは、拘束適正化委員会を含め、毎月利用者全員のケアについて検証し、拘束も抑制もないケアに取り組んでおり、職員へも検討内容を周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月e-ラーニングにてアンケートを行い日々自分の周りにもアンテナを張り巡らし虐待の芽を摘む活動を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	留萌市主催の青年後見人の研修を受け利用者様のニーズによっては助言を行う準備を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一点一点説明、確認を行い入居から退去までの不安をなくす為説明を行っています。ご理解納得を頂く中で契約を頂いて居ます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社としての苦情受付とともに、外部の受付機関についても設定し、入居書類にて記載し周知を行っています。	毎月ホーム便りと利用者一人ひとりに向けた個別のお便りを発行しており、その他にも法人からの小紙「コネクト」を送って、利用者の生活や事業所の思いを伝え、意見の反映に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度は、ミーティングにて意見の吸い上げを行い、その他に個別の面接を行いこの中で意見の反映させています。	毎日の申し送りや定期会議で意見、提案を受けており、また個別の面談の場も用意しながら職員の思いやアイデアを聴取し、介護の実践に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社全体としてマイスター等の試みが多くあり、頑張っている人が評価される機会が作られ、実践されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社として研修会への参加を応援していく制度が用意されています。又、社内研修についても、e-ラーニングを使い研修を行う環境を設定。会社全体として管理して行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との連絡が活発に行われ情報交換も出ています。特に入居時などは、事業所の垣根を越えて協力して利用者様が不安が少なくなる取り組みが行われています。又、社内各事業者間での交流、留萌館内統一行事での交流、切磋琢磨ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際からパートナーを設定しての関わりを通し思いを引き出し、基本的な関係を作る事で安心して頂けるつながりが出来ています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接段階より責任者がしっかりと関わり入居に対しての不安、入居後の相談に至るまで後追いをして安心して頂ける状況を作っています。この為、その後も何か有れば相談していただける関係が出来ています。面接段階から利用者様の人となり生い立ち等自分の事を知って居てくれる人となるように準備しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前審査を行う為、申し込み、面接段階より一貫して責任者が関わり現在までの経過、問題点、ニーズ等について出来る限り聞き取り事前に計画を作りご家族とも、これを下に話し合いを行い納得していただいた上で審査を行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝い等、各自に合わせた役割を設定する中で、主導的に動いていただく機会を設定。ここで、自分にいる意味を再認識して頂くと共に自信を持って頂き、お互いに感謝しあう関係が出来ています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特にご家族での支援が必要な形をあえて設定し、一緒に参加していただく中で絆の再確認をして頂く事が出来ています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	宗教が心の支えになっている方が、身体的、認知的な点から関係が途切れてしまいがちになっていた方が、発想の転換により教会に行けなければ来て頂く事にした所、落ちていた機能が再度活発になることがありました。	地域的な展望や身近な風景も大切に考え、馴染みの場を大切にしている。誕生会を利用者の家で行えるよう手配実行したり、関係の持続だけではなく新たに復活することも検討し、継続支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	中々個別での活動では長続きしない方が殆どなので、利用者様同士の関係を使い支え合い、牽制しあう中で継続した活動が出来ています。特にリハビリ、運動、レクリエーション等で生かされています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後についても関係を切る事なくご家族の必要に応じた支援、相談を受けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的には、ご本人の思い、希望の把握を行う中で勤めていますが、言葉での伝達が出来ない方が多くなってきている現状の中、現状の中での問題点の抽出を行った上で、ご家族ともご相談し、再度検討し進めています。	利用者の本音を聞きだせるように努めており、難しい場合は仕草や動きなどから判断し、また家族からの情報も含め定期的に聞き取り、本人本位の介護になるよう努めている。	利用者の思いへの取り組みを高く評価したい。今後は最後の時間をどこで過ごしたいのか、誰と迎えたいのか等々の利用者本人のエンディングに関して、定期的に具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本となる部分は、入居時に確認を行います。その後は、ご本人との接点を出来るだけ多くすることで聞き取りを行い、ここで得た情報を元により接点を作り収集し、個別での関わりに生かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度ミーティングにて現状の変化の確認を行っています。その上で、介護方針指示書にて評価を行い、個別の今の対策を作成し、プランに落とし、共有、対応を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的な介護計画は、各パートナが作成を行い、ミーティングにて全職員で検討最終的に、ケアマネージャーにより集約される一連の動きが形成されています。	担当が日々の様子を報告し、家族の希望も聞き取り介護計画を作成している。また目標達成の進捗度が把握できるように日々確認している。病変等で状況に変化が出た場合は、すぐに変更し現状に即した計画になるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録については、システムにて集約され、共有出し計画に反映し、実践に生かす事が出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自事業所だけにこだわらず様々機関との連携が可能な点については、入居時より説明され、事有る毎にご家族との相談の上連携が組まれてきています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の健康の駅や、病院、施設と連携して現状に対して生かせるものがないか機会を作り相談する機会が出ています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	市内川上内科医院との連携が行われており、居宅療養管理指導等で日々観察をして頂き、把握し、健康管理が行われています。	かかりつけ医は利用者や家族の希望を優先しているが、状況により往診等の必要性から利用者や家族の同意を得て協力医への変更も検討している。また協力医は運営推進会議にも出席し、適切な医療の提供に寄与している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣にある本社には多数の看護職員が配置され日常より関わりを持つ中で相談が出来る関係が出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本的には会社での決まりにより進め、病院との接点についても協力医からの医療連携などの活用により素早い対応が可能となっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	基本的な部分については、入居時の段階で聞き取りを行い、考え方、対応について共有が出来ていません。経過により変化していく部分については、都度変化が有る時に再度話し合いを行い対応を検討しています。	看取り介護については、利用者や家族の要望を踏まえて判断しており、医療的な問題を含め出来る範囲で希望に沿った介護に取り組み、適切な介護になるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥の対応、AEDの使用、吸引、などについてシュミレーションを定期的に行い、実践につなげています。又、消防の方により救急法の講習も定期的を受けて備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練とともに非常時の対策について研修会を行い確認を行っています。	年2回、消防の指導により地域の住民の協力を得ながら避難訓練を実施している。災害用の食料等備蓄品や停電用の冬季暖房機材も用意し、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常時見守りが必要な方でない限りは、特にトイレ、お風呂への対応について検討を行い共通の対応で対応を行っています。	理念に基づき、その人らしい生活を支援するように、人格やプライバシーに注意し、介護優先にならないよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で選択の機会を機会をあえてつくり意思決定の機会を設定をしている。しかし、想いを伝えることが困難な方についても簡単な答えでの対応ができる内容での参加を促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体での動きとは別に、個人のプログラムでの対応も行ってきました。又、コーナーの設定でその場所に行くことで楽しんで、自分の場所に帰ってきて休むという流れに対しても支援できています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別に化粧を行う方もおられますし、パートナーが来た時にお手伝いしてお化粧を楽しんでいる方もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常時行って頂いているのは、食器の片付けが頻度的には多いですが、準備の中でお手伝いを行って頂くこともあります。最近では、チャーハンホットプレートで作って頂いたり野菜の調理なども行っていません。	食材から調理、配膳、下膳にいたる工程で、利用者の各能力に応じたお手伝いをお願いし、また調理内容もソフトな歯ざわりの工夫がなされており、満足度の高い食卓になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本量の設定を行いながら水分、食事、の摂取を支援しています。個別に誤嚥の危険性のある方にはDrの指示によりトミ全介助等もありますが、各自に合わせた支援が行われています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本、イソジンでのゆすぎ、うがいは全員が行って歯の状態に合わせて洗浄方法の対応を変えて対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を行うため、個別に状態の変化の確認を行い、他人毎に対応を変えて対応し、出来る限り少しでも長くトイレでの排泄をできるように個別対応を行っています。	気持ちの良い排泄を目指し、オムツでもトイレで介助するように取り組み、排泄のサインを見落とさないように注意し、自立した排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の運動を活性化させるため個別に、足上げ、階段昇降等運動を行うことで、排便の状態が改善されてきています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の動きの中で、用意ができれば声を掛けさせて頂きタイミングであった方から入っていただいています。しかし、希望のみで行くと入りたくない方は入らないで済ませてしまうので、定期的に声を掛けお誘いしています。	入浴は一人に週2回を目途としているが、拒否者にはその人の気持ちに合わせながら、無理強いのことなく、タイミングや方法を変えるなど、入浴が楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や、認知の状態、夜間の状態とうにより日々の状態は変化するので、その状態によりよくなって頂いたり、逆に昼夜の逆転の解消のため出来るだけレクなどを行い起きて頂き、夜間の安眠を確保したりと合わせた支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	市内薬局と提携し、薬の管理をお願いしています。日々服薬介助には細心の注意を払い、思い込みの防止、間違いの防止のためチェック表を使用し確認しています。又服薬後の経過観察についても、Drの指示に従い行い報告を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者様の得意な部分を見極め役割としてのお手伝いを行って頂いています。日常生活の中でレクなどを通して利用者様同士張り合い、競う事での楽しみを提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよりますが、買物支援、ご家族との外出支援、継続的な自宅への外出等を支援してご家族との時間の確保、意欲の継続支援を行っています。	利用者の希望を優先しており、計画的な外出行事から突発的なお出かけ、買い物や外食、散歩等を精力的に行ない、またお盆の墓参りも支援し、閉じ込めない閉じこもらない介護に徹している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活の中では個々に金銭の所持はしていませんが、特にタッチハート行事などにより個々にお金を持参して頂き、お買い物を楽しんで頂く機会を設定しています。又行事の中で疑似貨幣を使用しお金を使い楽しむ機会を提供しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との中で話し合い、携帯電話の使用を支援したり、毎月月末には全員で絵手紙を作成してご家族に送付しています。中には返信して頂けるご家族もいっしょに継続しての活動として行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を利用者様の協力を得て作成し展示、見ていただく喜びや、満足感を味わっていただく。この他に職員により定期的に装飾を施し、季節を感じて頂いています。	1階と2階で1ユニットとなっており、1階のサンルームは集いの場や模擬店、正月には神社と化して初詣を受け、おみくじまで用意するなど、活発な社交の場所となっている。また事業所内は装飾も華美ではなく落ち着いた雰囲気です飾られ、過ごしやすい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、テレビを見ながらゆっくりと座れるソファの空間とカウンターでの個別の楽しみを行う空間を設定ごとに使い分けを行って使用しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がこれまでご自宅で使用していたものを出来るだけ持ち込んで頂く事で、心地よく過ごしていただいています。	今まで使っていた馴染みの家財や小物類を持ち込んで、心地よい居心地の良い部屋になるよう工夫を凝らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部については、二階建てでエレベーターもありません。しかし、逆に、一般の生活に近い環境で、生活をしていただく事で、階段を体力作りに生かしたり、手すりをリハビリの道具として使用したりと、不便を生かした工夫をしています。		